

佐久税務署長賞

《税でつなぎ、つなげる社会》

学校法人長聖佐久長聖中学校 三年 斉藤日真里

商品棚には百円とあるのに、実際に買うと百十円。小さい頃はそれを見て心なしに裏切られた気分になりましたが、成長するにつれ特に気にかけることはなくなりました。税金の存在を知ったからです。しかし、国民から税を集めて、そこからお金はどう回っていくのかぼんやりとしか思いあたりませんでした。

そこでまず税金について調べてみることにしました。税は大きく国に納める国税と地方に納める地方税に分けられます。驚いたのはその種類です。例えば所得税や消費税、住民税や入湯税など種類が豊富かつ幅広いところで税が納められているのは驚きです。また、直接税と間接税という分け方もできます。最近、大学生の兄が車を購入したのですが、兄が読んでいた書類の中に自動車税について書かれたものがありました。車の大きさによって払う税は異なるらしいのですが、その税は地方公共団体に納められ、やがて都道府県税となります。私が調べていて気になった入湯税というのは銭湯で支払う入浴料から、一旦施設がまとめて市町村に納められるそうです。

次に税金の使いみちを調べました。私が着目したのは医療費に使われる税金です。父が目の手術をした際に医療保険が適用されました。公的医療

保険は個人や企業、国などが保険料を支払うことで成り立ちます。治療代の1割から3割は患者の自己負担であり、残りの3割を超える医療費は国民や企業、自治体から集められた保険料や負担金から医療機関に支払われるそうです。皆で少しずつお金を出し合うことで病気で悩む人達を支え、自分の将来を見すえた先のある行動がこれからの未来を変えることにつながります。

しかしながら、これからの将来は税金を納めているからといい安心できなくなるかもしれません。それは、年金問題です。少子高齢社会の今、現役世代の負担増加や支給額の減少が問題視されています。

そこで、私が思うことは私達を支えてくれた上の世代の方々を見ならい、今度は私達で支えていくことが大切ではないか、ということ。小学校から勉強ができる環境があること、けがや病気の治療費が高額のままにならないこと、そういった恩恵の裏側には上の世代の方々が支えてくれた『税金』があった。だから次は私達が支えていこう、そんな気持ちを持つだけでもこれからの社会で生きるのにふさわしい人になることができると思います。さらに、これから数十年後私達が上の世代となったときのことを考え、手を打つことで自分自身を守ることもつながります。そのためには『学ぶこと』が大切だと思います。税や税とのつながり、使いみちの知識を得ることで、上の世代の方々が残してくれたものに、世代を継ぐ私達の行動に、社会を守るきっかけを得られるのではないのでしょうか。